

続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.49)

「国を知ってもらおうということ」(2)

・・・ライオンの尻尾よりはむしろネズミの頭・・・

以下は前号の続きである。メキシコ国の一端を感じとっていただけたらと思う。

4. 数の世界一 ……団結心？好奇心旺盛？単なる物見高だけ？

- ① 同時に同じ場所で、39,897人がキスをしたとしてギネスブックに登録された。

何故、奇数なのだろう？メキシコ市の議会は、法律的に同性同士の結婚も認めている(2006年、「シビル・ユニオン法」)ので、複雑な組み合わせもありか？この大会のスローガンが、愛のある所に暴力はない！とのこと。(2009年3月)・・・メキシコではいたるところで、キスシーンは見られるが、これで暴力もなくなれば、めでたしめでたしなのだが？・・・さて、現実は？？？



- ② メキシコ市で、12,937人のダンサーが、故マイケル・ジャクソンさんのヒット曲、「スリラー」のダンスをゾンビの格好をして踊り、ギネス世界記録に挑戦した。これまでの最多記録は、米国で樹立された242人だった。地元警察によると、イベントの見物人は推定で4万人から5万人に上ったという。(2009年8月)・・・踊り子の数も凄いが見物人の数も半端ではない。彼らも踊りだしたかも？

- ③ 世界天文年2009の世界企画の一つ、「ガリレオの夕べ」は、2009年10月に世界各地で行われ、メキシコが43箇所で望遠鏡1042台で天体を見て、ギネス世界記録に認定された。(2009年10月)・・・メキシコでは、過去にUFO目撃情報が何回かあり、宇宙に関心がある人が多いのだろうか？昨年8月に打ち上げられた、スペースシャトル「ディスカバリー」の乗組員7名の内、2名はメキシコ系アメリカ人である。



- ④ 大きな声では言えないが、誘拐大国である。順位は、1.メキシコ、2.イラク、3.インド、4.南アフリカ、5.ブラジルで、不名誉のトップとなったメキシコは、2007年には年間7000件もの誘拐があったが、表ざたにならない事も多いという。(2008年8月)・・・ミニ誘拐(短時間拘束し、クレジットカードで金を引き出させ解放する)も多いという。・・・注意して行動しよう。



5. 大きさの世界一 ……でっかいことはいいことだ？

- ① メキシコ市中心部の目抜き通りに、高さ110.35メートルのクリスマスツリーがお目見えし、ギネス世界記録に認定された。(2009年12月)・・・さすが世界有数のキリスト教国

- ② メキシコのメキシコ州で、長さ60.1メートルの「世界一長いズボン」が披露された。(2009年6月)・・・世界有数の肥満大国の人が何人はいれるだろうか！

- ③ かつて「世界一の肥満男性」だったメキシコのマヌエル・ウリベさんが、これまでに235キロの減量を果たし、2008年版ギネス・ワールド・レコーズの、「世界一重い男性」(約560キロ)として掲載されたほか、「世界一の減量」という別の記録を達成した。(2008年5月)・・・さすがにこの方でも上記のズボンは履けない



6. かつこよさの世界一・・・ ネット愛好者は愛国心旺盛？

① スペインの diario Espanol 20 Minutos がネットで世界一カッコいい国旗の投票をおこない、メキシコが1位になった。得票の結果は次の通り。一位、メキシコ 900,286、二位、ペルー339,771、三位、グアテマラ 271,449。現在のメキシコの国旗は、1968年9月16日に制定され、旗の緑は希望、白は、統一、赤は英雄の血を意味する。(2008年5月)・・・上位3国ともボラッチョ氏が、技術協力に従事した所だ。



② AOL の運営するサイト「Asylum」において、世界で一番ホットなお天気お姉さんを選ぶ投票が行われ、投票された 47,000 票を集計した結果、メキシコの Mayte Carranco さんが、世界で一番ホットなお天気お姉さんに決定した。(2008年8月)・・・天気予報を見るより女性に釘付けになりそうだが、ホットの人を見て、「ほっとするかも」!



7. 子どもの世界だって凄いぞ

① 小学生の4人に1人が肥満といわれ、子どもたちの肥満度は、いまや世界第1位で、大きな社会問題になっている。政府は、学校の授業の中で毎日30分の運動の義務、校内売店の菓子販売禁止などの施策を進めている。(2010年5月)・・・昨日の報道によれば、大人はOECD諸国の中で1位の肥満大国になったとのこと。コカ・コーラの一人当たりの消費量は世界一だという。何となく納得してしまう。

② メキシコで11才の闘牛士が1試合で6頭の牛を殺し、世界記録を樹立した。(2009年2月)・・・メキシコには世界有数の大きさの闘牛場があり、闘牛はルチャ・リブレというショー的な格闘技のプロレスと共に人気種目であるが、メキシコ、スペインとも闘牛が盛んな国が反捕鯨国、どうしてでしょうか?

8. 交通渋滞の世界一・・・猛烈なスピード?で、国も発展しています

メキシコ市は、交通渋滞が世界で最も深刻な都市で、交通苦痛指数ランキングで北京市と並んで世界1位になった。同ランキングはIBMが世界20都市のドライバー8129人を対象に、通勤時間、交通のペース、車両通行量が人々に与える圧力、乗客のイライラ度や仕事への影響などを考慮して行った調査に基づくもの。



100ポイント満点に設定された交通苦痛指数で、北京とメキシコはそれぞれ99ポイントを獲得して1位だった。・・・両国とも経済の進展にインフラ整備が追いつかない?(2010年7月)

前述の数々の出来事は他愛の無い些細なことかも知れないが、ステレオタイプで見ていた他国感から別の面が覗けると思う。前回の便りにも書いた、メキシコのミス・ユニバース優勝者の、「世界中の人々に私の国とそこにいる人たちのことを知ってほしい」と言う言葉を改めて思い起こさせられたが、大学生でもこのように気概をもって自分の国のことを語れるのだ。

ボラッチョ氏は仲間との交流や講義を通じて、日本のことを出来るだけ紹介しているが、教えたことに対して責任が生ずるだけに、無責任なことは言えない。自分自身の勉強にもなるし、皆一様に興味を持って聞いてくれるので心休まる。自分の国のことも気になるが、他国のことも気になるところか。

「もっと世界に向かって、日本のことを自信をもって語ってくれ」と、わが国の政権交代に期待したが、某大国の顔色ばかり窺う体質は、以前と変わりそうもなさそうだ。今日も本稿を書いている時点で、歯がゆい思いを感じつつ、何時に無くテキーラの杯を重ねてしまった。(2010年9月25日)